

みずほマーケット・トピック(2022 年 1 月 28 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週後半にかけて急上昇した。週初24日、113.80円付近でオープンしたドル/円は週内にFOMCを控える中で小動きだったが、海外時間に入るとウクライナ情勢の緊迫化や欧米株の軟調推移に一時週安値の113.47円まで下落。売り一巡後は、113円台後半を中心とした揉み合いとなった。25日、ドル/円は米長期金利上昇に伴うドル買いから114円台前半まで上値を伸ばした。その後米金利が低下に転じ、米1月消費者信頼感指数の冴えない結果もあって113円台半ばまで下落し方向感のない値動きとなった。26日、ドル/円は、FOMCを控える中、113円台後半で小動きだったが、海外時間に入り、パウエルFRB議長の会見で予定通りの3月でのテーパリング完了の他、3月での利上げ着手に加え、利上げ後にバランスシート圧縮を早期に実施することを示唆するなど、引き続きタカ派的な見解が示されたことから114円台半ばまで上昇した。27日、前日海外時間のドル買い流れが継続し、ドル/円はじり高に推移した。海外時間でも米株式市場の持ち直しや米10~12月期GDPの強い結果を受けて更にドル買いが加速、一時週高値の115.49円まで急伸した。本日のドル/円もその水準での取引が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて急落する展開となった。週初 24 日、1.1340 でオープンしたユーロ/ドルはウクライナ情勢を巡る警戒感からリスク回避の動きが活発化し、1.12 台後半まで下落。売り一巡後は再び 1.13 台前半まで反発も、やや方向感を欠く値動きとなった。25 日、ユーロ/ドルは前日の流れが継続して一時 1.12 台半ばまで下落も、その後は持ち直し 1.13 付近まで回復した。26 日、ユーロ/ドルは 1.13 台で上値を伸ばすも、FOMC でのタカ派色の強い情報発信を受けて米長期金利が急上昇し、ドル買いが優勢となり 1.12 台前半まで値を下げた。27 日、前日の FOMC の結果を受けた取引が続き、海外時間でも米経済指標の良好な結果が確認されると、ユーロ/ドルは一時週安値の 1.1131 まで急落した。本日のユーロ/ドルも前日の安値付近での値動きとなっている。

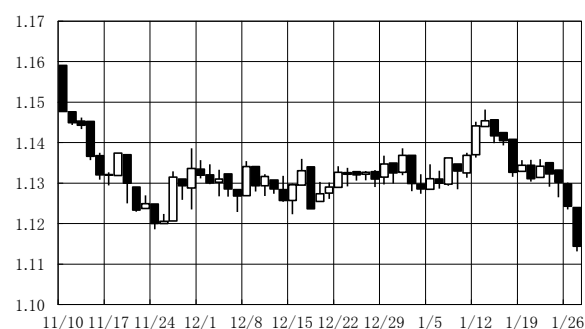
今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		1/21(Fri)	1/24(Mon)	1/25(Tue)	1/26(Wed)	1/27(Thu)	
ドル/円	東京9:00	114.12	113.79	114.01	113.90	114.72	
	High	114.22	114.00	114.15	114.69	115.49	
	Low	113.60	113.47	113.67	113.78	114.48	
	NY 17:00	113.69	113.98	113.86	114.67	115.37	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1456	1.1340	1.1323	1.1304	1.1241	
	High	1.1483	1.1350	1.1332	1.1310	1.1243	
	Low	1.1323	1.1291	1.1264	1.1235	1.1131	
	NY 17:00	1.1342	1.1323	1.1302	1.1243	1.1144	
ユーロ/円	東京9:00	130.70	128.95	129.02	128.75	128.97	
	High	130.80	129.15	129.20	129.26	128.97	
	Low	128.88	128.42	128.25	128.61	128.33	
	NY 17:00	128.98	129.13	128.71	128.82	128.60	
日経平均株価		27,522.26	27,588.37	27,131.34	27,011.33	26,170.30	
TOPIX		1,927.18	1,929.87	1,896.62	1,891.85	1,842.44	
NYダウ工業株30種平均		34,265.37	34,364.50	34,297.73	34,168.09	34,160.78	
NASDAQ		13,768.92	13,855.13	13,539.29	13,542.12	13,352.78	
日本10年債		0.13%	0.13%	0.13%	0.14%	0.16%	
米国10年債		1.77%	1.78%	1.77%	1.87%	1.80%	
原油価格(WTI)		85.14	83.31	85.60	87.35	86.61	
金(NY)		1,831.80	1,841.70	1,852.50	1,829.70	1,793.10	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、1日(火)に1月ISM製造業景気指数、3日(木)に1月ISM非製造業景気指数が発表される。12月の結果はそれぞれ58.7、62.0となった。製造業は11月と比較して2.4ポイント下落した。その要因としては仕入価格指数と入荷遅延指数が大きく低下したことが挙げられる。供給制約の下、商品価格や原材料価格の上昇、製品輸送の延期や長期化などが影響し、これらの数字が強く出ていたものの12月においてはいずれも約1年ぶりの落ち着いた水準となったことが報告された。一方で、新規受注指数は60.4と堅調さを維持し、雇用指数は54.2と8か月ぶりの高水準を記録した。また、非製造業は過去最高の結果を記録した11月から7.1ポイント悪化した。内訳をみると新規受注指数は61.2、雇用指数は54.9と前月からは軒並み低下しているものの、こちらも底堅い動きとなった。なお、ブルームバーグの予想では、1月の結果をそれぞれ58.0、59.6としている。経済指標関連ではこの他、4日(金)に1月雇用統計が公表予定となっている。
- 欧州では3日(木)にECB政策理事会を予定している。前回12月の会合ではパンデミック緊急購入プログラム(PEPP)を予定通りの今年3月末で終了することを決定した。また、定例購入プログラムであるAPPも一時的な増額を挟みつつ、今年後半には縮小・終了することを視野に入れた。こうした中で、ECBの正常化プロセスは「量」から「金利」に焦点が移りつつあるが、ラガルドECB総裁は今月に入り数値やデータ、事実を踏まえて必要となれば金融政策措置で対応する用意があると述べ、これまでの年内利上げ無し路線の修正にも含みを持たせている。この要因となっているのは域内でのインフレの高進であり、会合前日の2日(水)にはユーロ圏1月消費者物価指数(HICP)が公表される。前回12月の結果は前年比+5.0%と過去最高の結果となっており、インフレ抑制に対応するかたちで今週のFRBと同様にタカ派色の強い情報発信が必要になると見られる。
また、経済指標関連ではこの他、31日(月)にユーロ圏10~12月期GDPが発表される。7~9月期の結果は前年比+2.2%となった。10~12月期は域内でのオミクロン株拡大が懸念され、やや弱い結果となることが予想される。なお、ブルームバーグの事前予想では前期比+0.4%としている。

	本 邦	海 外
1月28日(金)	—————	・米1月ミシガン大学消費者マインド(確報)
31日(月)	・12月小売売上高	・ユーロ圏10~12月期GDP(速報)
2月1日(火)	・12月失業率/有効求人倍率 ・1月製造業PMI(確報)	・ユーロ圏1月製造業/非製造業PMI(確報) ・米1月ISM製造業景気指数
2日(水)	—————	・ユーロ圏1月消費者物価指数(速報)
3日(木)	・1月非製造業PMI(確報)	・ユーロ圏ECB政策理事会 ・英BOE金融政策会合 ・米1月ISM非製造業景気指数
4日(金)	—————	・米1月雇用統計 ・北京冬季五輪開幕

【当面の主要行事日程(2022年2月~)】

ECB政策理事会(2月3日、3月10日、4月14日)
 FOMC(3月15~16日、5月3~4日、6月14~15日)
 日銀金融政策決定会合(3月17~18日、4月27~28日、6月16~17日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年1月27日	FOMC を終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見通し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～シヨルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分) 続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≠「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分) FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本帰報報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本当の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか？
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～ 本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年10月分) 不安視される米消費者心理の悪化
2021年11月16日	今年2度目のマイナス成長となった日本
2021年11月15日	週末版(本邦10月国内企業物価指数を受けて～可視化され始めた円安&資源高の怖さ～)
2021年11月12日	ドル/円相場、5年ぶりの値幅は大相場の前兆か？
2021年11月11日	欧米7～9月期GDPについて～大きすぎる日本との格差～
2021年11月10日	FOMCと米10月雇用統計を受けて～今後の見方～
2021年11月9日	週末版
2021年11月5日	週末版(ECB政策理事会を終えて～冷静なインフレ分析と盛り沢山の12月会合～)
2021年10月29日	2%を突破したユーロ圏のインフレ期待と利上げの今後
2021年10月28日	供給制約下の利上げは正当化されるのか？
2021年10月26日	ECB政策理事会プレビュー～12月に向けた露払い～
2021年10月25日	週末版(ドイツメンバー、4度目の退場～バイマン独連銀総裁の辞任報道を受けて～)
2021年10月22日	本邦9月貿易収支を受けて～需給も円売り材料に～
2021年10月20日	ドイツ連立政権発足へ前進～クリスマス前にも？～
2021年10月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年9月分) 欧州委員会、初のグリーンボンド発行を受けて
2021年10月18日	週末版(IMF秋季世界経済見通し(WEO)を受けて～世界とは別次元の日本の悩み～)
2021年10月15日	円安に蝕まれる日本経済の現状
2021年10月13日	現実味を帯びるECB正常化、日銀にも好機
2021年10月12日	米9月雇用統計を受けて～既定路線の修正には至らず～
2021年10月11日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月9日開催分)～争点は「PEPPの次」へ～)
2021年10月8日	インフレ高進を考える～「目先の生活」vs「地球の気温」～
2021年10月7日	交易条件の悪化に蝕まれる日本経済
2021年10月5日	岸田政権に求められる「新規感染者主義からの脱却」
2021年10月4日	週末版
2021年10月1日	ドル/円の年初来高値更新と岸田新政権への期待
2021年9月30日	次期ドイツ政権が直面する課題②～域内再分配～
2021年9月28日	次期ドイツ政権が直面する課題①～対中関係～
2021年9月27日	週末版(FOMCを終えて～既定路線と化した「22～23年の利上げ」～)
2021年9月24日	恒大問題の現状整理～2つのポイントで理解する今後～
2021年9月22日	ドイツ総選挙直前プレビュー～政治空白は必至か～
2021年9月21日	週末版(実質実効為替相場(REER)の国際比較～過去1年で割安感が加速したのは円くらい～)
2021年9月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年8月分) 日本株上昇をどう解釈すべきか～2つの理由の妥当性～
2021年9月16日	70年代前半まで落ち込む円の価値、その意味
2021年9月14日	接種率の米国超えも、漂流する「戦略なき経済」
2021年9月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～12月がPEPP終了判断の分かれ目に～)
2021年9月10日	米消費者心理と米国の所得・消費環境について
2021年9月8日	世界経済は「踊り場」も円相場シナリオは揺るがず
2021年9月7日	米8月雇用統計を受けて～当面の3つのシナリオ～
2021年9月6日	週末版(ユーロ圏の物価情勢と孤立する日本～日米欧の物価情勢格差も鮮明に～)
2021年9月3日	ECB政策理事会プレビュー～にわかに出口モード～
2021年9月1日	ジャクソンホール経済シンポジウム～市場は安堵の様相～
2021年8月30日	週末版(ECB議事要旨を受けて～新ガイダンスを巡って議論紛糾～)
2021年8月27日	混沌極めるドイツ総選挙～真実味帯びる「CDU/CSU」下野～
2021年8月26日	銅金レシオ急落はリスクオフ開始の合図か？
2021年8月24日	ECB政策理事会プレビュー～「静観が吉」しかない情勢～
2021年8月23日	